

第3回 医療通訳を考える全国会議



日本に暮らす外国人が年々増加する中、医療通訳を考える全国会議では、医療現場におけることばの問題に取り組んでいる行政、国際交流協会、NPO、医療関係者、通訳者などが集まり、全国各地の状況を踏まえて課題の洗い出しや解決に向けた議論を行ってきました。今回の第3回全国会議では、医療通訳者のレベルの向上と医療通訳の社会的認知をめざし、実践者の視点から医療通訳とはなんであるかという(基準)について議論する「全国実践者会議」と、医療通訳において新たなトピックである「医療観光」について取り上げる「医療通訳を考えるフォーラム」の2部構成で実施します。

会場 キャンパスプラザ京都 (京都市下京区西洞院通塩小路下る)

参加費 1,000円

主催 医療通訳の基準を検討する協議会 (構成団体: 多文化共生センターきょうと、多言語社会リソースかながわ)

申込 <http://tabunka-kyoto.org>の申込フォームから直接お申し込み ※電話でのお申し込みには対応しておりません。
又はサイトでFAXフォームをダウンロードし事務局(075-353-7206)にお送りください。

事務局 〒600-8104京都市下京区五条高倉西入る万寿寺町143いづつビル6F NPO法人 多文化共生センターきょうと
Tel 075-353-7205 Fax 075-353-7206 info@tabunka-kyoto.org

全国実践者会議

定員10団体(追加募集3団体程度)
オブザーバー(個人)参加40名

11:00~12:30

第1会議室

X

全国実践者会議

定員10団体(追加募集3団体程度)
オブザーバー(個人)参加40名

15:30~17:00

第1会議室

医療通訳を考える フォーラム

定員70名

13:30~15:00

第4講義室

全国実践会議

医療通訳者には何が必要か?

通訳に必要な能力、技術、資質、知識、姿勢などの「基準」について、通訳者を養成し派遣している実践者の視点から議論します。

実践者会議では多言語社会リソースかながわ及び多文化共生センターきょうと協働のプロジェクトチームにより、現場の視点から作成された医療通訳基準の「素案」をもとに全国各地の医療通訳派遣・養成をしている団体・医療機関の実践者が集い協議検討を行い、それぞれの地域で活用できる共通基準づくりを行います。

実践者会議参加団体の条件(下記の条件をすべて満たした団体)

- ・医療通訳者の派遣実績がある団体
- ・医療通訳者の養成を行っている団体
- ・午前、午後の実践者会議に参加できる
- ・事前に団体内で基準について協議検討ができる

※参加決定団体の方には7月中旬以降に会議資料をお送りします

※実践者会議は団体参加を前提としていますので個人での参加はオブザーバー参加枠でお申込みください。

締切: ● 実践者会議参加団体(7/31) ● オブザーバー参加(8/18)

会議の詳細はwebで

<http://www.tabunka-kyoto.org>

フォーラム

医療観光と医療通訳のゆくえ

新たな通訳の必要性が問われている医療観光に関して、そこで求められる通訳像とこれまでの医療通訳との共通点や違いを明らかにし、相互理解、相互発展につなげていきたいと考えています。

締切: ● 参加申込(8/18)

医療通訳者には 何が必要か??

医療通訳者に必要なものは・・・??

知識・技術・姿勢・・・

いっしょに議論しませんか??